

4 研究実践

(1) 全校的な道徳教育の体制づくり

① 道徳教育推進教師の役割

全校的な道徳教育の体制づくりにおいて道徳教育推進教師の果たす役割は大きい。道徳の授業は学級担任が行なっていたが、それぞれが悩みを持っていた。そこで、道徳教育推進教師の提案により、本校の研究はまず、道徳の授業実践から取り組むことで、全教師が共通の課題意識を持つことを目指した。

また、指導案の形式、参観の協力体制、授業整理会の持ち方や協議内容等については、全職員の見解を取り入れながら進めてきた。

ア) 全員で確認したこと

本校の体制づくりで一番の特徴は『「道徳の時間」はすべて公開』としたことである。「道徳の時間」の指導改善と充実をはかり、授業力の向上をねらう。そのために確認したことは次の5点である。

- ・ 道徳の時間はすべて公開とし、授業が入っていない職員は参観する。
- ・ 副担任は記録をとる。
- ・ 副担任も授業を行なう（記録は担任がとる）。
- ・ 授業の前には略案を作成し、配布する。
- ・ 授業後は時間をかけないように、ミニ整理会を開く。

まずやってみることが大切である。その上で取組を広め、全校的に意識を高めていくことが道徳教育推進教師の大きな役割であると考えた。

イ) 授業研究の流れ

○ 略案作成と授業公開

授業者は、本時でのおもな発問を書き込んだ指導案（略案）を毎時間作成し、全職員に配布した。作成に当たっては生徒同士が学び合う授業になるように心がけ、ねらいにせまる中心発問を吟味した。授業研究を重ねていくうちに、「道徳の時間」の捉え方は、指導者によって異なり、取り組み方もそれぞれであることが分かってきた。

そこで、「道徳の時間」はどんな時間なのかを教師も生徒も共通認識するために、全校で、道徳オリエンテーション「はじめよう、道徳！」の時間を設けた。

○ 参観の協力体制

副担任は授業記録をとり、授業のない職員は参観する。授業記録は、参観用紙に記入し、板書はデジタルカメラで記録した。時には、副担任や教頭も授業を行なった。多くの職員がかかわることで授業のバリエーションが増えていった。

ウ) ミニ整理会

授業後は、その日のうちミニ整理会を開いた。部活動などもあり、放課後はなかなか全職員がそろわないため、休み時間等を利用して意見を交換した。



道徳科

2月 / 日 (日) 曜日

タイトル 狼のつと

授業者 (久田) 記録 (道徳) 参観 (教頭、山崎、山崎、山崎)

発問と教師の働きかけ	生徒の発言の様子	<input type="checkbox"/> 良かった点 <input type="checkbox"/> △工夫する点 <input type="checkbox"/> □気づいた事
○ 道徳の時間とは何か ○ 道徳の時間とは何か ○ 道徳の時間とは何か	・ 道徳の時間とは何か ・ 道徳の時間とは何か ・ 道徳の時間とは何か	・ 良かった点 ・ △工夫する点 ・ □気づいた事
○ 道徳の時間とは何か ○ 道徳の時間とは何か ○ 道徳の時間とは何か	・ 道徳の時間とは何か ・ 道徳の時間とは何か ・ 道徳の時間とは何か	・ 良かった点 ・ △工夫する点 ・ □気づいた事
○ 道徳の時間とは何か ○ 道徳の時間とは何か ○ 道徳の時間とは何か	・ 道徳の時間とは何か ・ 道徳の時間とは何か ・ 道徳の時間とは何か	・ 良かった点 ・ △工夫する点 ・ □気づいた事

板書

整理会では、協議の視点を明確にした協議を心がけた。発問や資料の提示の仕方が適切であったか。生徒の本音を引き出す工夫がみられたか。ねらいにどれだけ迫れたか等を協議した。

エ) 道徳掲示

授業の足跡を残すために、教室後方に道徳掲示のコーナーを設けた。資料名や授業、「心のノート」のキーワードをはり、いつでも授業を思い出せるようにした。



② 校内研修の役割

もう一方、全校的な体制づくりにおいて、欠かせないのは校内研修であった。「学校研究」として、課題やねらいを共有し、確認できる大切な場である。

ア) 学習指導要領の研修

校内研修では『新学習指導要領解説 道徳編』を使い道徳教育の理解を深めた。その中で、学習指導要領改訂のポイント、内容項目の研修は研究の土台づくりとして有効であった。



イ) 講師招聘による研修

校内で行なう研究は、時として深みにはまり、同じ話し合いが続くときがあった。そんな時には大所高所からの指摘が大いに参考になった。

本校では、金沢工業大学の伊藤啓一先生と、淑徳大学の新宮弘識先生を招いての研修会を行った。貴重な意見をいただいたことで活路が開け、より深い教材の見方、授業のポイントを意識して授業実践に取り組むことができた。

ウ) その他の研修

- ・年間指導計画の立て方について
- ・参観記録の取り方について
- ・道徳の授業Q&A
- ・多様な指導法（模擬授業）について
- ・「心のノート」の活用の仕方 等

③ その他の取組

ア) 道徳の指導計画の改善

本年度の年間指導計画をもとに、資料を精選し、他教科との関連を図った指導計画づくりに取り組んだ。年間指導計画は略案形式とし、次年度も活用できるように形式を工夫した。

イ) 指導に活かす生徒の意識調査

- ・道徳性の高まりを検証するために、道徳に関する意識調査を実施した。
- ・本年度は意識面の調査だけでは不十分であると考え、行動面の調査を加えて道徳的実践の様子も調査した。

6月	第2週	【主題名】家族の深い愛
【資料名】10 美しい母の顔 (出典 あかつき 「中学生の道徳2 自分を考える」)		【内容項目】4ー(6)
【ねらい】 家族の深い愛情によって育てられたことに感謝し、より充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。		
【主題構成の理由】 自分があるのは、祖父母や父母があり、そのかけがえのない子どもとして尊い生を授かり、深い愛情をもって育てられたからである。人間には、このような心から理解し合え、自分を受け止めてくれる存在が必要である。指導にあたっては、自分を支えてくれる家族の深い愛情に気づかせ、感謝し、自らが家族の一員として積極的により充実した家庭生活を築こうとする態度を育成することが大切である。		
1 家族について振り返る。 ○「家族」に言いたいことはありますか。 ○いつも家の人にどんなこと注意される？ ・毎日ごはんを作ってくれるのに残してごめんなさい。 ・毎朝起こしてくれてありがとう。 2 「美しい母の顔」を読んで、話し合う。 ○母親はどんな気持ちで「友達を呼んだら？ おいしいケーキを作ってあげるわよ」と言ったのだろうか。 ・呼ばれるばかりでは娘が肩身の狭い思いをしているのではない。 ・にぎやかな誕生日にして娘を喜ばせたい。 ○学校で母親を怒鳴り、振り向かずに教室にかけこんだときの私の気持ちを考えてみよう。 ・あれほど愛んでくれたのに、という怒り。 ・友達に見られなかったらどうか。 ・友達に見つからないようにさきさきと帰ってよ。 ・友達に悪言を言われたらどうしよう。 ○父の話を聞いて、私はあとからあとから読まれてくる涙を止められなかったのはなぜだろう。 ・ 事実を知ってショックだったから。 ・ 私のために真実を告げなかった母の深い思いを知ったから。 ・ 何も知らずに母を責めていた自分が情けなかったから。 ・ 母への感謝の気持ち。 ・ これまでのことをあやまりたい。 ○私が母親の顔をどんなきれいな顔より美しいと思えるのはなぜだろう。 ・ 自分を犠牲にしてまで自分を守ってくれた母を誇りに思っているから。 ・ 私への愛がいつだって溢れている顔だから。 3 心のノートを読み、記入する。 ○今日の学習で感じた事や考えたことを「家族へのメッセージ」としてまとめてみよう。		
関連	心のノート102、103ページ 内容項目2ー(2)、3ー(1)	社会科学公民（個人と社会生活）、親子の手紙（PTA活動）
採	指導主事針前訪問。1 単目の発問は、家庭から注意される事を知ること、発達し最も管理職をつくった。中心発問では、多様な意見が出た。「母が守ってくれたから、今自分が生きている」先週家庭に対して投げやりな発言をした生徒が響いた。ただ、教書で生徒の発言が分り易く分類されていなかった。ダイナミックな板書となるよう指導を受ける。「家族へのメッセージ」までたどりつかなかった。時間配分に注意したい。心のノート102・103ページを見て、「カッコいい！」という発言があった。自分の家族に誇らせる工夫を。	